

イチオシ 一ノ目潟の「年縞」堆積物標本が話題

ジオパーク学習センターに展示、過去の環境を解析

2月1日、秋田県文化財保護審議会は、男鹿市の一ノ目潟の年縞堆積物標本(計49点)を県天然記念物に指定するよう答申しました。この年縞標本の一部はジオパーク学習センターに展示されています。年縞堆積物は全国でも確認できるのは12か所程度しかなく大変貴重なものです。年縞が構成されるには四季の変化を受けた堆積物が乱れずに湖底に保存されることが必要で、そのために様々な自然の条件が揃っていなければなりません。そしてこの年縞を解析することで過去の気候変動や局地的な災害について年単位で復元することができます。ジオパーク学習センターで一ノ目潟の年縞堆積物標本を観察しながら、年縞の見方やそこからどんなことが解析されたのか、説明員の話聞きながら過去にタイムスリップしてはいかがでしょうか。



▲年縞堆積物

催し 大潟村公民館・大潟村干拓博物館とジオパーク学習センターがコラボ 親子で体験! 「ジオパーク・スイーツづくり」に16組参加

2月27日に大潟村公民館、大潟村干拓博物館共催でジオパーク学習センターが講師を務め開催されたのが、家庭教育学級「親子で体験!ジオパークスイーツづくり」(会場は大潟村公民館)。当日は大潟村在住の親子(乳幼児)が16組参加し、スイーツづくりを通して楽しく男鹿の岩石のできかたを学びました。会場ではチョコレートなどの甘い香りが広がる中、ホットプレートなどを使いながら幾つかの火成岩のスイーツを参加者みんなが上手に作りました。ジオパーク・スイーツづくり教室はジオパーク学習センターが昨年新たに開発した体験教室で、楽しく岩石のでき方が学べるとあって人気を博しています。



▲岩石のスイーツづくり

SDGs 安田海岸の海洋漂流プラスチックごみから地球環境を考えよう

ジオパーク学習センターでは、男鹿半島のジオサイト・安田海岸に漂着したプラスチックごみを調べ、地球環境について考える環境学習を準備しています。併せてマイクロプラスチック採集にも挑戦してみましょう。これらをもとに安田海岸の漂流プラスチックごみの量が今後どうなるのか、あるいは減少させるにはどうすることが求められるのか、マイクロプラスチックごみが増えたら私たちにどういう影響があるのかなど、海流や各国のプラスチックごみの排出量など様々な資料をもとに考えてみませんか。同時に海が温暖化したり酸性化すれば、どのような影響が出るのか、実験なども含めていっしょに考えます。



▲海のごみを採集

トピックス 男鹿市ジオパーク学習センターは、2月末に来館者数2万人を突破いたしました。